

都市再生整備計画 事後評価シート
まちなか地区(第2期)

令和5年3月

長崎県長崎市

様式2-1 評価結果のまとめ


都道府県名	長崎県		市町村名	長崎市		地区名	まちなか地区(第2期)		面積	242ha	
交付期間	平成30年度～令和4年度		事後評価実施時期	令和4年		交付対象事業費	1362百万円	国費率	0.5		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名									
		基幹事業	【道路】新庁舎周辺道路整備事業、【地域生活基盤施設】歩道橋整備、【高質空間形成施設】市道大黒町麴屋町線、市道勝山町古町1号線、市道東小島町丸山町1号線、環長崎港夜間景観整備事業								
		提案事業	【地域創造支援事業】大浦地区公民館、【事業活用調査】事業効果分析								
	当初計画から削除した事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		基幹事業	【道路】市道大黒町上町1号線、市道大黒町上町2号線	県営バスターミナルの建替えに伴い、周辺道路である当該市道の道路改良を行うこととしていたが、建替え計画が定まらず、計画期間内の実施が困難なことから、事業削除			歩行者交通量の指標に影響があるため、調査地点を7箇所から6箇所に減らしたことにより、従前値・目標値を変更				
		基幹事業	【高質空間形成施設】市道興善町風頭町1号線	整備内容に係る地元との調整が合意に至らず実施が困難なため、事業削除			他事業の実施により、同等の効果が見込まれるため、指標への影響なし				
		基幹事業	【高質空間形成施設】市道魚の町諏訪町1号線	当該事業と関連する他事業との調整により、事業削除			他事業の実施により、同等の効果が見込まれるため、指標への影響なし				
		基幹事業	【高質空間形成施設】市道勝山町麴屋町1号線	整備内容に係る地元との調整が合意に至らず実施が困難なため、事業削除			新たに市道浜町伊勢町線を整備することにより、同等の効果が見込まれるため、指標への影響なし				
		基幹事業	【高質空間形成施設】市道大黒町恵美須町1号線、市道五島町恵美須町1号線	移転補償に係る協議が難航し、計画期間内での実施が困難なため、事業削除			歩行者交通量の指標に影響があるため、調査地点を7箇所から6箇所に減らしたことにより、従前値・目標値を変更				
		基幹事業	【高質空間形成施設】炉粕町(鳥居脇)公衆トイレ	地元から要望のあった近隣便所の再整備について調整を行ったが、他事業との調整により計画期間内の実施が困難なため、事業削除			新庁舎建設事業において、新庁舎に公衆トイレ機能を有した施設トイレが整備されるため、指標への影響なし				
	提案事業	なし	—			—					
	新たに追加した事業	基幹事業	【公園】魚の町公園	まちなか地区における安全性・快適性の向上と賑わいの創出を図るため、事業追加			新たに公園利用件数を指標として追加				
		基幹事業	【高質空間形成施設】市道浜町伊勢町線	当該事業と関連する他事業との調整により、事業追加			効果を見込んでいた事業の代替えとして整備するため、指標への影響なし				
		提案事業	【地域創造支援事業】まちなみ整備事業、賑わいと活力あるまちづくり事業	都市構造再編集中支援事業への移行に伴い、社会資本総合整備計画の効果促進事業で実施予定だった当該事業を提案事業として追加			社会資本総合整備計画の整備方針に本事業を効果促進事業として位置付け、その事業効果を指標に見込んでいたことから、指標への影響なし				
交付期間の変更	当初	平成30年度～令和4年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
	変更	なし									

	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	歩行者交通量(まちなか地区6地点)	人/日	47,859	H29	47,400	R4		35,051	×	あり なし ●	令和5年12月
	指標2	出島の入場者数	人/年	429,848	H29	513,000	R4		364,758(見込み値)	×	あり なし ●	令和5年5月
	指標3	まちなか人口の比率	%	5.04	H29	5.25	R4		5.28	●	あり なし	—
	指標4	公園の利用件数(まちなか地区8公園)	件/年	143	H29	155	R4		172(見込み値)	●	あり なし	令和5年5月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	まちなか地区人口	人	21,306	H29				21,040			—
	その他の数値指標2	今までに出島を訪れたことがある人の割合(市民意識調査)	%	49.5	H29				72.5			令和5年4月
4) 定性的な効果発現状況	<p>・魚の町公園や回遊路の整備に関して、九州デザインシャレット(まちづくりに関する学生や若手技術者の設計演習会)の開催や地元自治会と意見交換会を行うことで、様々な意見を反映することができ、より良いまちづくりを進めることができた。</p> <p>・長崎居留地歴史まちづくり協議会と連携することで、長崎の歴史あるまちづくりに向けた体制が整った。また協議会と市が連携しシンポジウムを開催したことで、より多くの市民や事業者の方々に取組内容を知っていただき、まちづくりの機運醸成に繋がった。</p> <p>・中島川周辺においては、地域の資源である町家を活かした、和のまちなみづくりが進んだことにより、市民の方からも、雰囲気がよくまちがよい方向に変化しているとの声をいただいている。</p> <p>・魚の町公園の整備によって、憩いの空間が増え、新たな賑わいや交流の場となっている。</p>											
5) 実施過程の評価	モニタリング	実施内容		実施状況				今後の対応方針等				
	官民連携による取組	<ul style="list-style-type: none"> 魚の町公園の整備において、九州デザインシャレット(まちづくりに関する学生や若手技術者の設計演習会)によるワークショップを開催し、様々なアイデア等を設計に反映させた。 回遊路等の整備において、地元と意見交換を密に行い設計に反映させた。 夜間景観の整備において、地元と一緒に照明の実証実験を行い、設計に反映させた。 まちなみ整備やまちなか町家の助成制度を活用し、官民連携して和のまちなみの形成に取組んだ。 都市再生整備計画で実施した事業の成果を周知し、まちなかの賑わいの継続、発展に繋げることを目的として、まちづくり活動を行っている市民、団体の方や地元商店街と連携し、まち歩きイベントを開催した。 		<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 				<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、まちなかの魅力・活力を高めるため、市民活動や交流の場となる公共空間などを増やしていく。 今後も、地元と意見交換やワークショップなどを行い、官民が連携し、まちなか地区の特徴にあった回遊路の整備を行う。 今後も、地域の資源(町家など)を活かしたまちづくりにより、地域の魅力向上を進める。 今後も、まちの魅力や市民活動を知ってもらい、賑わい創出に資する事業への支援を行う。 官民が連携し、当該事業で整備したものの活用に関わり、まちなかの賑わいを創出する。 イベント参加者に実施したアンケートの意見をまちなかの魅力を向上に資する取り組みに反映させていく。 				
	持続的なまちづくり体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 浜町地区のまちづくりを促進するため、先行して組織された浜町地区再開発準備組合の技術的支援を行った。 東山手・南山手のまちづくりを行う目的で、地元関係者で組織する長崎居留地歴史まちづくり協議会が設立され、東山手・南山手区域における今後のまちづくりの指針となるランドデザインやアクションプランを策定した。 市民や団体が行っているまちづくりに関する事業の自立・持続性を高めて、まちの賑わいを継続・発展させていくため、意見交換会を開催し、民間と連携しプロフィール帳の作成など「自由に繋がりが持続的に発展できる仕組み」の構築に取り組んだ。 		<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 				<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、左記活動など支援し、民間が主体となったまちづくりの取組みを進めていく。 今後もまちづくり活動を行っている市民、団体と連携し、地域力によるまちなかの賑わいの再生を支援し、まちの賑わいを発展させていく。 また、更にまちなかの魅力を高め、まちなかに絶えず賑わいが生み出されている状況をつくっていく。 そのために、市民の声を聴きながら、まちづくりを進めていく。 				

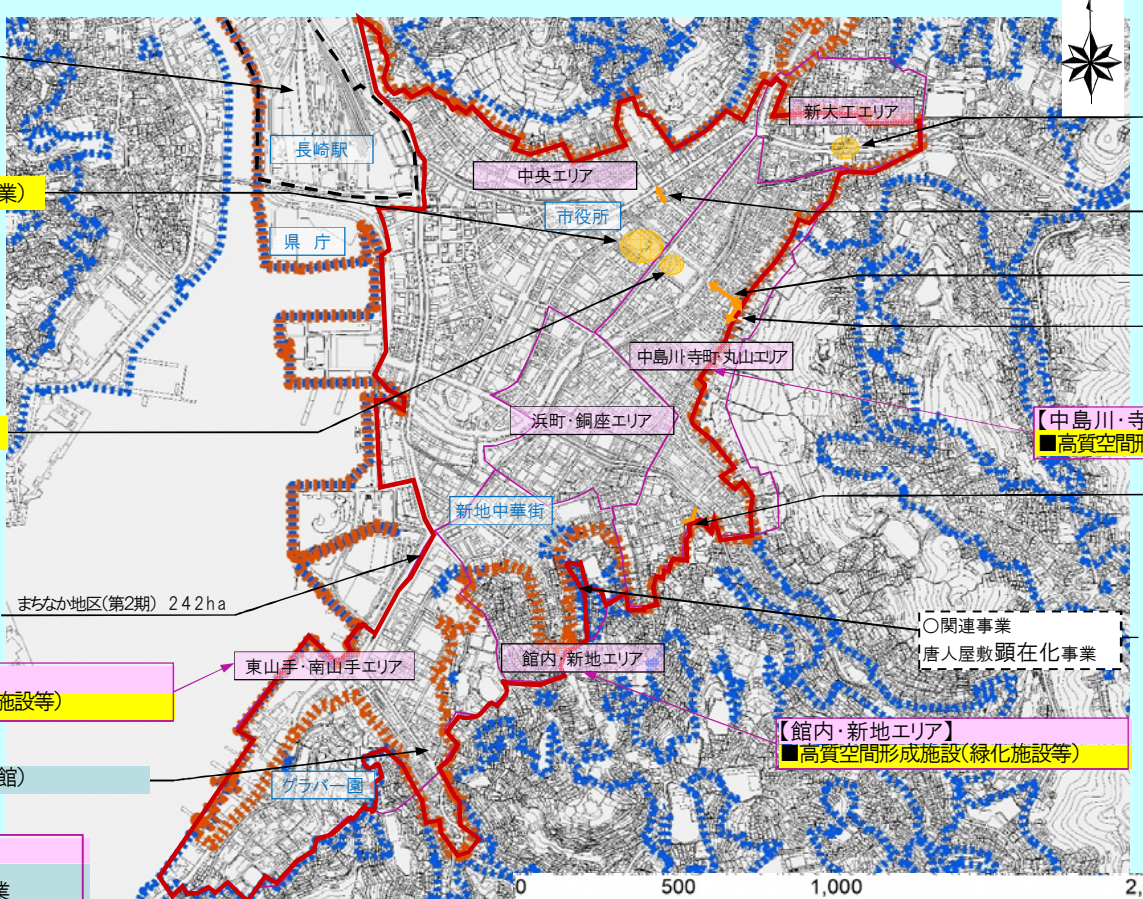
様式2-2 地区の概要

まちなか地区(第2期)(長崎県長崎市) 都市再生整備計画事業の成果概要


まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:まちなか地区の都市拠点機能を高めるとともに、交流の拡大のため、まちなかの賑わいを創出する 目標1:集約連携型の都市構造の実現に向けて、都市拠点機能を高める 目標2:安全・安心・便利な暮らしやすいまちなかを創る 目標3:地域の魅力を向上させ、賑わうまちなかを創る	歩行者交通量(まちなか地区)	単位:人/日	47,859	H29	47,400	R4	35,051	R4
	出島の入場者数	単位:人/年	429,848	H29	513,000	R4	364,758(見込み値)	R4
	まちなか人口の比率	単位:%	5.04	H29	5.25	R4	5.28	R4
	公園の利用件数(まちなか地区)	単位:件/年	143	H29	155	R4	172(見込み値)	R4




新庁舎周辺道路整備



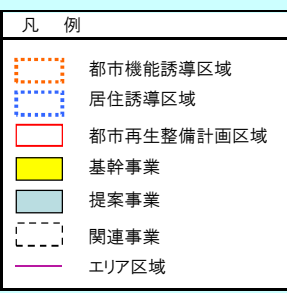
まちなか地区(第2期) 242ha



新大工歩道橋




魚の町公園




凡例


- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 都市再生整備計画区域
- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業
- エリア区域



市道東小島町丸山町1号線



まちなみ整備事業



湊公園中華門(夜間景観)

まちの課題の変化

- ・都市拠点機能を高めるとともに、これまで都市再生整備計画の事業で実施してきた道路や公園等の整備により、まちの安全性、快適性が向上し、長崎市全体の人口が大きく減少している中、まちなか地区の人口比率は増加しているものの、定住人口は微減となっていることから、今後は定住人口を維持していくため、更なる都市拠点機能の向上及び整備が必要である。
- ・公園や夜間景観などの整備により、交流場所の確保や昼夜を問わない交流の促進が図られたが、地域住民と来街者等との交流や賑わいを生み出す空間等が必要である。
- ・地域による主体的、持続的な活動が活発化してきたが、その活動を支える拠点が不足しているため、拠点施設の整備が必要である。
- ・地域の特徴に合わせた道路整備及び町家等の保存・修景に係る助成によるまちなみの整備を継続し、地域の魅力を高めていく必要がある。
- ・夜間景観の整備により、昼夜問わずまちなか地区の魅力的な資源を活用することが可能となったが、その魅力的な資源へ交流人口を誘導するために長崎駅周辺の拠点施設との回遊性を強化する必要がある。
- ・都市拠点施設である新庁舎周辺の交通環境が十分でないため、引き続き周辺道路の整備を行い安全で快適な交通環境を確保する必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・定住人口維持のため、憩いと賑わい空間の確保により、地域住民の交流や賑わいを促し、魅力や活気に溢れたまちづくりを行うとともに、暮らしやすさを高める。
- ・地域住民と来街者との交流を促進し、賑わいを生み出す空間等を創出する。
- ・地域と連携しながらまちづくりを進め、地域や市民が主体となって行うまちづくり活動を継続して支援し発展させるとともにその活動を行うための拠点となる施設の整備を図る。
- ・まちなか地区の特徴に合わせた回遊路やまちなみの整備などを継続し、当地区の魅力を高めて交流人口を拡大することで、集客施設の波及効果を取り込む。
- ・長崎駅周辺地区とまちなか地区の動線などを強化することにより回遊性の向上を図り、常に人の賑わいのあるまちなかを創る。
- ・引き続き、都市拠点機能の向上のため、新庁舎周辺道路の整備を進め、安全で快適な交通環境を確保する。